



hは鳥をイメージ。また、human(人間関係)、放泉会、福祉のh。

下の青は放泉会の泉をイメージ。また、波紋は地域、情報発信の意。

全体として色合いの緑、青は早蕨(さわらび)を基本に自然をイメージしている。

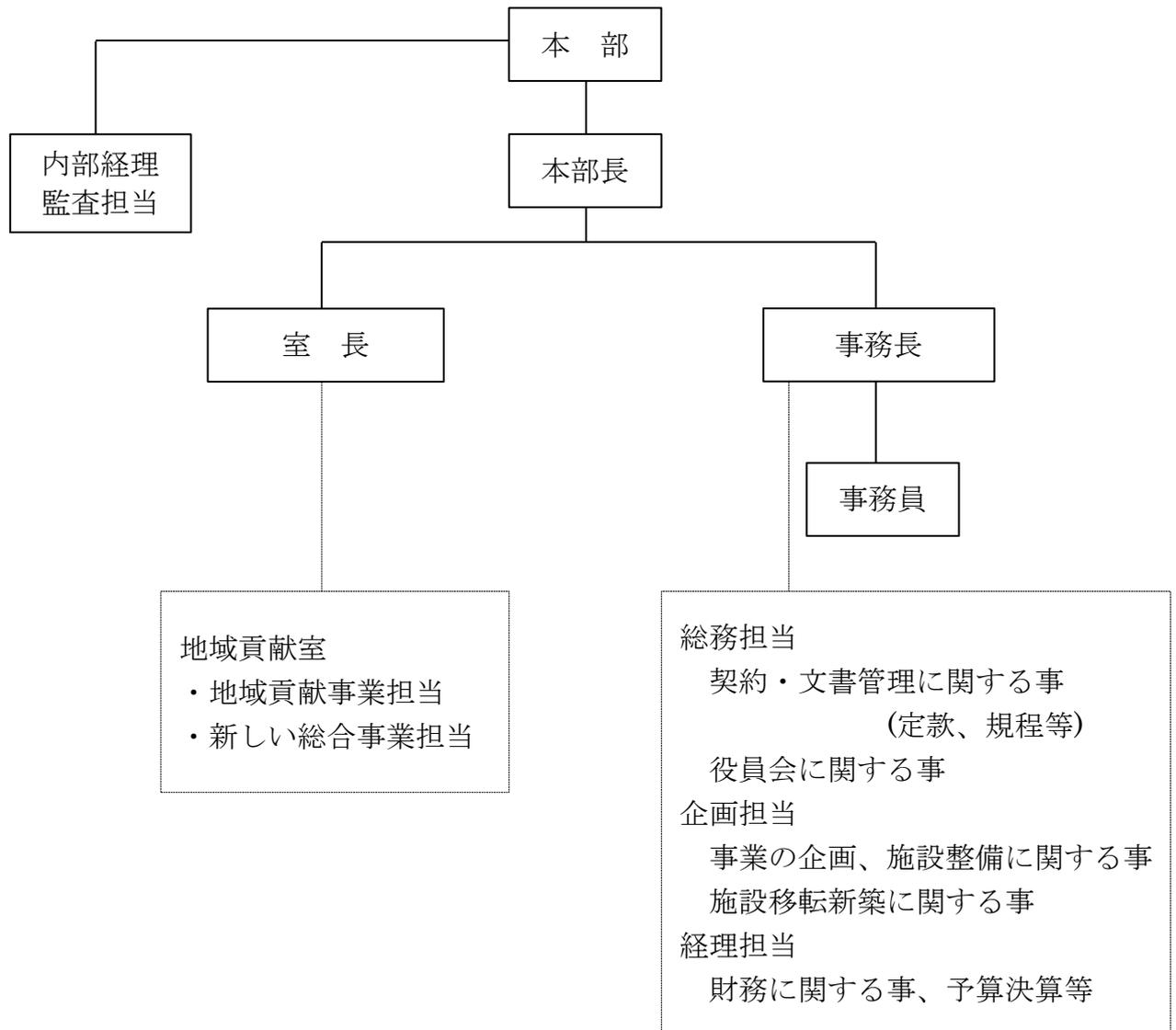
基本理念

福祉は人なり

人は心、こころはあい、愛は人

- ・命を尊び、利用者個々のニーズに沿った対応に心がけるように、職員の間人性、専門性を高めていきます。
- ・サービスの向上の為、「気くばり」「心くばり」「目くばり」「声くばり」を職員の心得として、質の向上を目指します。
- ・利用者の方には快適を、家族の方には安心感を得られる介護を行います。

② 新しい組織図（施設関係詳細は別紙）



③ 人事配置の強化 新たな体制づくり

④ 労働安全衛生法改正

- ストレスチェック制度
- 衛生委員会の強化、見直し ⇔ 産業医

⑤ 法人ブランドの強化

- 満足度 120% → 感動するサービス
- ~~~~~大切に人材を育て、組織を生かす人づくり~~~~~
- 夢を思いを形にする**スタート年度**としたい

2. 事業計画

(1) 組織基盤強化

① 役員会開催

- ・ 理事会 年5回 (必要に応じて随時開催)
- ・ 評議員会 年5回 (必要に応じて随時開催)

② 監査

- ・ 監査会 年1回 (決算)
- ・ 内部経理監査 年2回 (担当者による)

② 役員研修会

- ・ 中国地区セミナー (松山市) 7月21日～22日
- ・ 全国経営者研修会 (熊本市) 9月14日～15日
- ・ その他各種研修会

事業所別目標値 (稼働率)

事業所名	目標値 (稼働率)
さわらび苑 (契約)	96%
さわらび苑 (短期)	一日1名
グループホーム	98%
DSさんべ	80%
居宅さわらび	介護90名/月 予防30名/月
ゆうイング (契約)	96%
ゆうイング (短期)	75%
DSゆうイング	88%
サンチャイルド	120名/月
学童クラブ	通常期 40名

3. 地域貢献事業計画

- (1) 施設所在地集落の道路清掃作業 年2回
- (2) 三瓶周辺の清掃作業 (草刈) 定め松周辺、浮布の池周辺
- (3) 池の原周辺集落の田植え及び稲刈り作業
- (4) 地域の健康教室講師派遣
- (5) さわらびシンフォニックバンドの地域文化祭及び各種行事に出演
- (6) 地域の学童クラブに指導員派遣
- (7) 地域婦人会活性化の為に職員の加入促進

〈特別養護老人ホームさわらび苑(空床利用型短期入所生活介護事業所)〉

＜相談員部門＞

1. 地域貢献を昨年に引き続き積極的に取り組み、地域ニーズに対応する。
2. 入退所の調整を迅速に行い稼働率アップを図る。
3. ボランティアの受け入れと各種関係機関との連絡、調整を行う。
4. 認知症について、より積極的に全職種で取り組み専門性の高いケアを目指す。

＜介護支援専門員部門＞

1. 個々の生活歴、残存機能を把握したケアプランを作成し、生活の中で生かす事ができるように結びつけ、多職種協働で自立支援に繋げていく。
2. 利用者の喜び、楽しみを引き出す為、地域及び他機関との連携を取り入れたプランの作成を行う。
3. 看取り期に本人、家族が安心して最期を迎える事ができるプランの作成を行う。
4. 担当者会議へ家族の参加を求め、家族の思いを引き出し、対話する中で、本人のより深い情報を家族、各職種間で共有する場となるようにする。

＜看護部門＞

1. 他職種との連携、情報共有を行い、異常の早期発見に努め長期入院を減らす。
2. 看取り期に医療職としての関わりの中で利用者、家族の不安の軽減に努める。
3. 嘱託医はじめ他機関との連携に努める。

＜機能訓練指導員＞

1. 個々のニーズに応じて機能の維持、向上を目指す。
2. 残存機能の維持、自立支援に重点を置き、日常生活の中での機能改善につなげる。
3. 天候に応じ外出の機会を設け、生活意欲の向上、楽しみにつなげる。

＜介護部門＞

1. 個別ケアの充実を目指し、まずはご利用者自身を知る為、ヘルパーとしての意識を常に持って質の高いサービス提供に努める
2. 施設での看取りが増えてきている中で、ご利用者の気持ちや訴えに寄り添う時間を設けて質の高い看取り介護を実施していく。
3. 短期入所利用者が退所後も自宅において円滑な生活が送れるよう、また家族負担軽減に繋がるよう支援する。

＜栄養・調理部門＞

1. 利用者の声に可能な限り対応し、楽しみのある安心・安全な食事を提供する。

2. 利用者個々の栄養ケア計画書に基づき、食事摂取状況を観察し、他職種と協働して栄養ケアマネジメントを行い、経口摂取が維持できるよう努める。
3. 月1～2回程度、季節料理、希望献立を取り入れ、家庭的な食事を提供する。
4. 職員個々が衛生意識を高く持ち、食中毒、感染症を発生させないよう衛生管理を徹底する。

〈特別養護老人ホームゆうイングさわらび(併設型短期入所生活介護事業所)〉

〈相談員部門〉

1. 利用者と家族との調整をする（契約から退所まで）
2. 各関係機関との連携、実習生・ボランティアの受け入れ調整

〈介護支援専門員部門〉

1. 担当者会議に利用者・家族の参加50%以上を目指し、利用者・家族との信頼関係を構築すると共に、その方らしい個別性のあるケアプランを作成する。必要に応じて（御家族の高齢等に伴い）担当者会議をご自宅で開催し、地域との関わりを持つ。
2. 終末期を迎えられた方のこれまでの生き方や生活観を大切にし、その人らしさが最後まで保たれるようなプランの作成を行う。
3. それぞれの専門職が支援目標を共有し、ご利用者の意向が叶えられるように他職種間の調整役を担う。

〈機能訓練部門〉

1. 残存機能の維持を図り、個々のニーズに応じて機能回復を目指す。
他職種との連携を十分に取り、ベット上、又はベット周り等、各個人に応じた場所での訓練（自主訓練も含めて）が取り入れられるような働きかけをする。
2. グループ活動や施設外での訓練を取り入れていく。
利用者が参加したくなるようなプログラムを考え、グループ活動を実施する。他利用者との訓練を通して意欲を高めたり、楽しさを感じてもらう。
又、各利用者が施設外に出かける機会をできるだけ多く持つようにすることにより、気分転換を図り、今後の生活に意欲を持たせる。
3. 心理的援助を含めた訓練を目指す。
個々の話を傾聴し、悩み・不安を取り除き、苑生活の活力に繋がるような場になるよう努める。

〈看護師部門〉

1. 看取りケアの充実

- ・「ゆうイングさわらびで最期を迎えたい」また「迎えることが出来て良かった」と、言って頂けるような看取りケアに取り組む。
 - ・介護職員が不安なく看取りケアに関われるように、情報の共有をはかる。
2. 経管栄養、喀痰吸引、在宅酸素、人工肛門、インシュリン注射等、医療ケアの必要な利用者の受け入れ
 - ・在宅で医療ケアが必要な方の受け入れをすることで、「介護離職者ゼロ」へ貢献する。
 3. 日常の健康管理を徹底し、長期の入院による減収を防ぐ。
 - ・職員自己の健康管理。
 - ・主治医への報告を密に行い、利用者の異常を早期に発見する観察力を身に付ける。

<介護部門>

1. 利用者の状態（認知面、生活動作等）に合わせたブロックを編成し、根拠に基づいた科学的ケアの実践に取り組む。
2. 終末期を迎えられた本人・ご家族が、安心してその人らしく最期を迎えられる様に内部・外部研修を計画的に行い、緩和的ケアや死生観等の道德心の向上に取り組む支援していく。

<栄養・調理部門>

1. 栄養ケア計画に基づき、長く経口摂取が維持できるよう、安心安全な食事を提供する。
さわらび苑の協力を得てマネジメント力を挙げていく。
2. 地産地消を基本とし、季節行事や旬の食材を生かし、利用者の声にも応え家庭的な食事を提供する。
消費税もさらに上昇する事を踏まえ、無駄の無いよう食材の使い方、見せ方も工夫していく。
3. 異物混入予防作業マニュアルにより意識を高め、徹底することで安心安全な食事作りに併せて心豊かな食環境の充実を図る。
4. マニュアルを見直し、看護・介護課と連携し感染予防、食中毒予防に努める。
5. デイサービスの食事は、適温食の提供をするとともに意見や要望を聞きながらより喜ばれる食事の提供を目指す。

<グループホーム>

1. 環境
 - ・家庭に近い環境を提供することにより、認知症の緩和を図る。
 - ・定期的な行事、外出を計画し、季節感や非日常的な場を提供する。

2. 個別ケア
 - ・多角的にニーズを検証し、根拠に基づいた個別援助計画を作成し、援助を行う。
 - ・個々の能力に応じた自立した生活が送れるよう援助する。
3. 健康
 - ・排泄、水分、栄養、睡眠を重視し、個々の健康管理に努める。
4. 家族との連携
 - ・これまで以上に、ご家族との連携を密にし、“安心”の提供を行う。
5. 地域交流
 - ・地域との交流、かかわりを大切にし、地域密着の事業所の理解を深めていく。
6. 質の向上
 - ・認知症、介護に関する研修を行い、職員の質の向上を図る。

＜デイサービスゆらイング方針＞

1. 中重度者を積極的に受け入れ、要介護者中で要介護3～5の方の割合33%を目標とする。
2. リハビリに注力し、要介護者の個別機能訓練加算算定割合25%、要支援者の運動機能向上加算算定は月15人を目標とする。
3. 体制整備だけでなく、職員間連携を密に取り、効果的な支援に努める。
4. 他事業所、機関との連携により、これまで以上に信頼される事業所を目指す。特に居宅介護支援事業所とは、より一層密な連携を図って行く。

＜デイサービスセンターさんべ方針＞

1. DSさわらび廃止に伴い、利用定員を15名へ増員する。
1. 個別集団メニューを通し心身を動かすことで、利用者のQOLの向上につなげる。
2. 利用者のニーズに応じ、既存施設でのサービス提供を行い、リハビリ機器、ラヂウム鉱泉での入浴を有効的に活用し、利用者満足につなげる。
3. 民家改修型デイサービスとして、地域のボランティアを積極的に受け入れ、地域交流の場として地域に根ざした事業所を目指す。

＜居宅介護支援センターさわらび＞

運営方針

1. 特定事業所集中減算を回避する。
2. 目標指向型のプランニングを意識する。その為に課題整理総括表を活用していく。
3. 地域包括ケアシステムを理解し、インフォーマル資源をプランに取り込めるようにアセスメント及びプランニング力のアップを図る。
4. 他機関と積極的な連携を図る。
5. 大田市から介護保険認定調査受託（7件程度/月）

〈サンチャイルド長久さわらび園〉

子ども・子育て支援新制度を理解し、放泉会理念を機軸に子どもたちの育つ力を見守り地域に誇れる保育の展開

1. 目 標

子ども・子育て支援新制度の内容や方向性を確認・理解しつつ、今後の保育事業者としての役割や目指す保育について一層の研鑽を重ね、時代や地域が求める保育園作りに邁進する。

2. 運営方針

放泉会理念を基に養護・教育・食育の3本柱を機軸に、園舎の環境を大いに活かすとともに職員の保育の資質を高めながら、内容の充実や特色ある保育を展開する。

3. 保育理念

- (1) 園児の皆様には快適を保護者の方には安心感を得られる保育を行う。
- (2) 園児個々の保育のねらいに沿った対応に心がけるように、職員の人間性・専門性を高める。
- (3) 日々の心得として、「気くばり」「心くばり」「目くばり」「声くばり」で職員の質の向上を目指す。

4. めざす保育園

- (1) 子どもたちが、来てよかったと満足して帰る保育園
- (2) 保護者が、預けて安心と信頼する保育園
- (3) 子どもと大人(保育士)の関係がしっかりつくれる保育園
- (4) 一人ひとりを大切に、月齢に応じ特色を生かした保育活動のできる保育園
- (5) 育ち行く子どもに快適な環境が与えられる保育園
- (6) 地域に開かれ地域のこころの拠り所になれる保育園

5. 求める子ども像

たくましい子ども

生命を大切に未来に向う力を培うことができる子ども

- (1) 元気に思いっきり身体をつかって遊ぶ
- (2) 失敗してもあきらめず、最後までやろうとする
- (3) 自分のことが自分でできるようになる
- (4) 好き嫌いなくよく食べ感謝の気持ちを大切にする
- (5) 安全・安心のくらしのために約束が守れる

明るい子ども

先生や友だちと仲良くできる子ども

- (1) 元気に返事をし、自分から進んであいさつやありがとうが出来る
- (2) 人のお話が最後までしっかり聞ける
- (3) 元気に遊び、友達と仲良くしたり優しくしたりする
- (4) 季節の移ろいの中で沢山の体験をし、恵まれた自然の動植物に親しむ

<学童クラブ>

運営方針

長久小学校等で放課後、週末等に保育が必要とする児童に、安心してのびのびと放課後を過ごせる場所を提供することにより、児童の健全な育成を図る。

対象児童

原則として長久小学校1年～3年生

保育時間 平日 下校時間～18:00

土曜日 8:00～18:00(サンチャイルド長久さわらび園にて)

長期休暇 8:00～18:00

延長保育 18:00～19:00

閉設日 日曜日・祝日 12月29日～翌年1月4日

8月13日～16日

その他 理事長が特に必要と認めた日

学童内容

- ・動植物を通じて生まれる心や身体の動きにより、健康増進につなげていく。
- ・夏期は衛生に気を付け、冷たいものをとりすぎないようにする。又適度な休息をとるよう心掛ける。
- ・装飾等全員で一つの物を作り上げていく楽しさを知る。
- ・一年を通して来年度の進級に向けての気持ちと一年を振り返り、楽しかった事等の思い出を共有する。
- ・ビデオ鑑賞として「人権について」を随時実施し、お互いに認め合う心を育てる。
- ・外遊びの中で、道路沿いにネットを張りボール遊びが、のびのびと思いきり遊べるようにする。
- ・エコ活動として資源を大切にする心を育てる。